

世界を好転させるために

平等を求める女の子とユース女性アクティビストたち

要約

PLAN INTERNATIONAL | GIRLS GET EQUAL

プラン・インターナショナルが発表する『世界ガールズ・レポート2023』は、ユースアクティビスト（活動家）に焦点を当てている。1,000人を超える参加者を対象に、思春期の女の子やユース女性のアクティビストとは何者なのか、どのように扱われているのか、安全だと感じているのか、何が彼女たちを支えているのか、といった独自の洞察を行った。この調査は、女の子やユース女性アクティビストに関する研究としてはこれまでで最大規模のものであり、画期的である。特に、70人のユース女性自身による対面インタビューは、彼女たち自身がアクティビストであることから、インタビューでありながらフォーカス・グループ・ディスカッションにもなっているという、参加型手法が採用された点で、画期的である[1]。

多様な活動が存在することは、民主的プロセスにおいて重要である。市民スペースが縮小・変容し、ジェンダー平等の進展が停滞し2 、調査対象国の中には、抗議する権利が厳しく制限されている国もあった3。そんな時代だからこそ、女の子とユース女性の声を傾聴することは、保護すべき権利である。この調査は、女の子やユース女性アクティビストたちが直面する障壁と、彼女たちを前進させる動機とひらめきの両方を理解し、女の子主導の活動を強化・支援することを目的としている。

「私に勝ち目はない、、、そんな気持ちになります。抗議活動をしたり、デモ行進をしたり、そうやって変化を求め大声を張り上げたとしても。アクティビストとして意思決定に関与するため、会合に出席して何かについて発言したとしても、『会議に割り込んで主張を通そうとし、すべてをこじつけようとする迷惑な存在』と見なされるだけです。そこには数えきれないほど多くの否定的な意味合いが込められているのです。」

Aoife、21歳、アイルランド

調査結果の詳細については、plan-international.org/turning-world-aroundを参照のこと。

私たちが学んだこと



女の子やユース女性がアクティビストになる理由はさまざまだが、大半の場合、彼女たちの活動は憤りを原動力としている。このような憤りや変革への欲求は、個人的な状況が引き金となった場合もあれば、気候危機やジェンダーに基づく暴力（GBV）のような世界的な問題が引き金となった場合もある。一部のアクティビストは、差別されることが日常茶飯事となっており、そこから抜け出すことは不可能な状況に置かれていた。

思春期の女の子とユース女性は、相互に関連する多様な問題をめぐってキャンペーンを展開している。調査回答者が最も関心を寄せているテーマとして、ジェンダー平等とGBV が浮上した。

「私を最も奮い立たせる社会正義運動のひとつはジェンダー平等です。なぜなら私の人生に重大な役割を果たすからです。自分を受け入れ、自分のために立ち上がり、自信を持ち、声を上げ、そしてもちろん、この世界で不平等に苦しんでいるユース女性たちを導くことを学んだ、私にとって重要な運動でした。」

Enna、18歳、フィリピン



61% の調査対象の思春期の女の子とユース女性が、変化を生み出すという**自身の活動の影響は、期待通りであったか、期待以上であった**と答えている。彼女たちから、月経衛生 、早すぎる結婚、GBVといった問題を啓発したことで、地域に変化が生じ、自分以外の人々も行動を起こすきっかけとなったと話してくれた。

95% の調査回答者が、「活動が自身に**良い影響**を与えた」と答えている。回答者は、活動を通じて自分自身がエンパワーメントされ、能力向上につながったと感じていると語っている。

「私自身が大きく変わりました。今では自分の果たす役割や、現在の不公正の中でも活動を続ける理由も理解しています。他の女の子たちが不公正な状況を理解し、自問自答するようになることは、とても良いことです。なぜなら、気づくことから私たちは物事を変え始め、アイデンティティを持ち始め、自分自身を理解し始めるのであって、社会が私たちに望む姿を映す鏡としてではなくなるのだから。」

Amora、20歳、ブラジル

17% の回答者が、活動中に**身の危険**を感じたことがあり、**21%**が、活動に参加した場合の身の危険を恐れ、**活動を思いとどまったことがある**と報告した。インタビューで、アクティビストは抑圧的な取り締まり、地域コミュニティの人からの敵意、路上での危険感、オンライン・ハラスメントを指摘している。

思春期の女の子やユース女性は、資金不足、自信のなさ、家族や友人からの批判など、自身の活動に対する多くの障壁に直面している。アクティビストたちはまた、体系的 なジェンダー差別、抑圧的な法律、制度的な官僚主義も、効果的なキャンペーンを阻む障壁であると指摘している。

「人々から暴言を吐かれたり、抗議活動中に警察に逮捕されそうになったりと、活動にはさまざまな障壁があります。しかし、一般市民の目やメディアに気づくと彼らは離れていきました。」

Pushpa、23歳、バングラデシュ

54% の回答者が、活動への参加を阻む主な障壁として、**経済的余裕のなさ**を挙げている。

27% の回答者が、**コミュニティのメンバー**や家族、友人から否定的な意見を言われ、動への意欲を削がれた。

「私からすると、女の子にはチャンスが開かれていないと思うし、女の子の意見は男の子のようには考慮してもらえないのが普通です。男性と女性が同じ部屋にいるとしたら、男性が自身の意見を伝えることが優先されるでしょう。」

Julia、16歳、ヨルダン

25% の回答者が、活動中に**感情的・心理的に不調**や不安を感じたと答えた。回答者は、うつ病や燃え尽き症候群など、精神的な健康が損なわれ、サポートを受けることができなかったと報告した。

教育 は、アクティビストとしての彼女たちのアイデンティティと、変化に影響を与える能力の基礎となるものと考えられている。技能訓練と知識構築は、彼女たちの活動を成功させるための中心的なものであると考えられた。

このような障壁にもかかわらず、女の子やユース女性アクティビストのほとんどは、ライフワークとして活動を続ける決意を固めていた。

「人々を助け、物事を変えることができるのは、満足のいくことだと思う。一つひとつのことすべてが活動に集約されると思います。それは私にとって何より大切なことなのです。」

Praia、24歳、ブルキナファソ



提言

今日の世界でユース女性アクティビストになるのは容易なことではない。女の子やユース女性の多くは、自身が関心を持ち、他者が議論することを望まない問題について発言するだけで、コミュニティの規範に挑戦している。彼女たちはコミュニティからの反発を受け、友人や家族からの批判にさらされる。LGBTIQ+であると自認していたり、宗教的、人種的、民族的マイノリティに属していたりすると、このような誹謗中傷 はさらにひどくなる。彼女たちは間違いなく自身の大義のために尽力しているが、支援され、声を増幅し、意思決定に彼らの意見が取り入れられる必要がある。

これは、他のアクティビスト集団で活動するだけでなく、政府、政策立案者、コミュニティリーダー、国際NGOや、彼女たちとともに立ち上がる力を持つ多くの人や機関と協力することを意味する。

「ともに声を上げることは良いことです。個人的にはどんなときも協力した方がよいと思っています。」

Belkis、22歳、エチオピア

彼女たちの活動を支援する方法はたくさんある。

資金提供

政府、ドナー、国際NGO、その他の地方や国の資金提供機関は、女の子やユース女性が主導する草の根組織に対して、柔軟で多様な資金を提供する必要がある。また、すべての人が市民生活や公的生活に参加できるようにするために、適切な場合には補償を提供しなければならない。

ジェンダー差別に取り組む

コミュニティと政府のリーダーは、家庭内を含む社会のあらゆるレベルでジェンダーステレオタイプに取り組み、女の子とユース女性の活動と社会への貢献が認められ、評価されるようにしなければならない。また、政策立案の議論も含め、公的生活のあらゆる分野において、女の子とユース女性の有意義な参加を促進しなければならない。

市民空間を守る

国内および国際的な政策立案者は、安全に抗議する権利を含む市民の自由が守られるよう、あらゆる公共の場において市民空間を保護しなければならない。女の子やユース女性に対するハラスメントや虐待は、オンラインでも対面でも、非難され、法的制裁を受けなければならない。



研修への投資

学校、大学、市民社会組織は、女の子やユース女性が見たいと思う変化を推進するために彼女たちの効果や関与を促進する、リーダーシップ、自信、人前で話すこと、コミュニケーションといったソフト・スキルを含む、技能訓練と知識の構築を支援しなければならない。

女の子の安全を守る

学校で、NGOで、警察で、政府省庁で、国連で、女の子やユース女性とともに働く権力者たちは、彼女たちがキャンペーンに従事しているとき、彼女たちの精神的健康と身体的安全の両方にとって特別なリスクがあることを認め、それを解決しなければならない。



ガールズ・レポート
2023

1 調査は、840人の参加者アンケート、203人のインタビュー、合計57人の参加者によるフォーカス・グループなど、さまざまな方法で行われた。 https://planinternational.org/publications/turning-world-around を参照のこと 。
2 World Economic Forum. 2023. Global Gender Gap Report 2023. https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2023 にて入手可能 [Accessed 20 July 2023]。
3 この調査対象の26カ国のうち、平和的集会の完全な権利を認めているのは10カ国だけである。Right of Assembly Information Center https://www.rightofassembly.info/ を参照のこと [Accessed 26 July 2023]。

調査結果の詳細: plan-international.org/turning-world-around